

2014

環境問題に関する動画制作

Stop-motion Animation on Environmental Problems

AD20 高橋 正
指導教員 西野 隆司

1. 研究目的

「21世紀は環境の世紀」言われるように人類が初めて共通の問題として地球環境問題に目を向け解決する時代に直面している。マクロ的な地球規模の環境問題を解決する第一歩として、まず身近な問題を解決することが重要視されている。そこで、本研究では将来を担う子供たちをターゲットとし、彼らにとって身近な問題を取り上げ、地球規模の環境問題解決への糸口を提案したい。中でも取り分け我々の生活にはもはや欠かすことの出来ないペットボトルを使用することとした。

2. 調査と分析

テレビやPCが多く出回っている現代ではメディア媒体「映像」が環境問題という大きな問題に興味を持ってもらうためには一番理解しやすく、表現をしやすと考えた。現在、政府はゴミを減らすことや、エネルギーの削減という個人規模で簡単にできることを呼びかけている。日本人1人が1年間に使用するペットボトルの量は1.5ℓでおおよそ52本である。

3. コンセプトの立案

「インパクト」「面白さ」を印象付け、環境問題に興味を持ってもらう。

4. デザイン展開

映像の種類は馴染み深いストップモーションアニメーションいわゆるコマ撮りを用いることにより、環境問題をより身近に意識してもらおうと考えた。そして、飽きさせず環境問題について表現するために様々な方向に重力が変わるように撮影することにした。

(1) 意識向上を図るための手法

- ・インパクトのあるものが頭に残る
- ・楽しいものほど印象に残る
- ・最後まで見てもらえるよう飽きの無い構成が必要
- ・現実的でありつつも非現実的な遊び心が必要

(2) コマ撮りの特徴

- ・写真が主なためあらゆる方向から世界を魅せることが可能である。
 - ・通常では不可能な方向からの撮影が可能である。
- 上記の結果から、楽しいイメージを与えつつ、インパクト

があり、飽きることの無い構成が必要であると考えた。

そこから、主人公を人間とし、きちんとゴミ箱へ捨てられ無かったペットボトルに逆襲される様子をスピード感を持たせ、普段決して動くはずのないペットボトルをまるで生き物のように表現することにより現実味を持たせ、リアルに見せることで、視聴者に恐怖を持たせようとした。そして、最後にペットボトルをゴミ箱に入れるシーンを入れ、視聴者がより環境問題に取り組もうという意識の向上を目指した。

5. 完成図



6. 結論

中学生20人ほどに見てもらった結果、「これからは気をつけようと思う」「面白い」「斬新」等の回答を貰えた。しかし、一方で「重力の移り変わりがわからなかった」「速さがバラバラ」と言うような意見もあり、飽きのこないという想いが先走り理解させることにかけており、メッセージが伝わり辛いのではないかと思った。この結果から、コマ数の増強や重力の変化をもっと解りやすくすれば、より意識向上に繋がる動画になったのではないかと感じた。

7. 参考文献

- ・竹内泰人, “【コマ撮り】オオカミはブタを食べようと思った。”, ニコニコ動画(参照2011-02-16)
<http://www.nicovideo.jp/watch/sm6706012>
- ・MusMus, “oldGold” “追跡者”(参照2011-02-16)
<http://homepage2.nifty.com/musmus/music.html>